

商店街の歴史

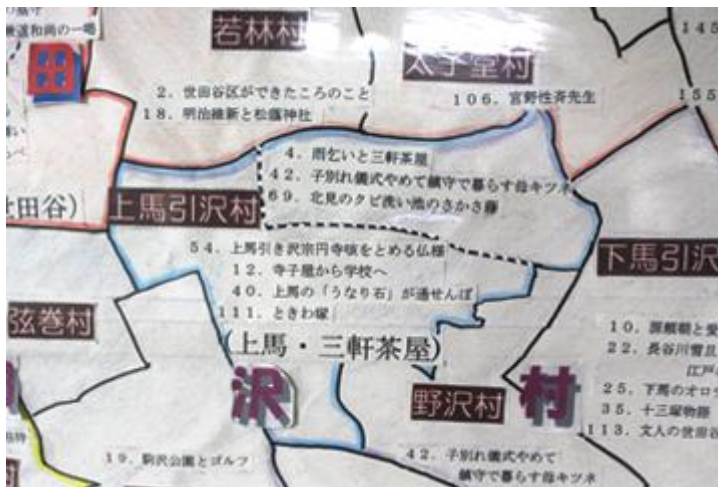


「中里通り」について

現在の国道 246 号は昔、「玉川通り」と言われ、もともとは三軒茶屋から中里商店街のある中里通りを通り、上馬へ抜け、二子玉川まで続いていました。

当時は中里より西は農家が多く、この通りを使って青山方面へ野菜などを運んだと言われています。

そして、第二次大戦の頃に三軒茶屋から上馬を一直線につなぐ大きな道路が作られ、現在の国道 246 号になりました。



「上馬」「三軒茶屋」の由来

私たちの商店街は、上馬 1 丁目と三軒茶屋 1 丁目にあります。

上馬は、昔は馬引沢村と呼ばれていました。その由来は鎌倉幕府を開いた源頼朝が奥州の藤原氏を征伐に向かった時のことです。

葦毛の馬に乗った頼朝が蛇崩川の地を過ぎようとした時に、驚いた馬のみが沢に落ちて死んでしまいました。その時、頼朝はこの沢は馬を引いて渡るべし、といい、それ以来、馬引沢村と呼ばれるようになったそうです。

その後、上・中・下に分かれ上馬引沢村になりましたが、短縮されて現在の上馬となっています。

また、三軒茶屋の由来は、大山街道の分岐点（現在の田園都市線の三軒茶屋駅）にあった信楽、角屋、田中屋という 3 件の茶屋が並んでいたことに由来します。

中里のお年寄りのおはなし

玉川通りの中里より先はほとんど農家ばかりで、農家の方は皆さん青山の方に二輪の手車で野菜を運んで、帰りは人糞を肥料として積んで帰ってきたものでした。

その道には三つの坂道がありました。渋谷の坂、池尻の坂、上馬の坂です。

そこでは一人ではとても手車を上げられませんので、立ちんぼという車の後押しをする人が待っていて、よく後押しをしていたものです。

その後、戦争の頃には用賀に東条英機さんが引越されてきて、近くの子供たちが道路で遊んでいて通行の邪魔になるとい

うので、三軒茶屋から上馬まで一直線に大きな道路を作れということで今の246号が出来上がった訳であります。

それ以来、旧大山街道である中里通りを通らずに、新道を二子玉川行の玉川電車やバスが通るようになったと聞いております。



「大山街道」について

三軒茶屋駅の交差点に「大山街道」という道標を見ることができます。

この通りは江戸時代、江戸の赤坂御門を起点として、青山・渋谷・三軒茶屋から中里通りを通り、二子玉川・多摩丘陵・相模野を横切り、足柄峠手前の矢倉沢関所まで続き、神奈川県大山の山頂「大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）」に、旧暦六月から七月にかけ参拝する「大山詣り（おおやままいり）」に使われるとても栄えた道でもありました。

この「大山詣り」は、富士よりも江戸に近いといった利便性の他、道中に博打場や遊興の場があったことから、大変人氣があったと伝えられ、この大山詣りを題材とした歌舞伎舞踊「山帰り」、落語「大山詣り」なども作られています。また、同時にタバコや鮎、生糸、炭など、相模地方の産物を運んだ産業の道でもありました。

- 歌舞伎舞踊「山帰り」について <http://www.yamagaeri.com>
- 落語「大山詣り」について <http://ja.wikipedia.org/wiki/大山詣り>

伊勢丸稲荷神社／庚申尊／地藏尊

世田谷区内に残る貴重な大山道の一つである中里通りには、
道沿いに「伊勢丸稲荷神社」や貞享3年(1686)の「庚申塔」、「地藏尊」があり、当時をしのぶことができます。



伊勢丸稲荷神社



庚申尊



地藏尊



世田谷を初めて走った玉川電鉄「玉電」

1907（明治40）年に開通した通称「玉電」は、当時の土木・建築工事のために玉川の砂利を運ぶ輸送機関として計画され、世田谷の発展とともに旅客と貨物の輸送もあわせたかたちで開通。道玄坂上から二子玉川間を走る電車で、この中里通りも通っていました。

明治・大正・昭和と長く親しまれていましたが、戦後の自動車の発達により、道路の混雑などの理由で昭和44年、世田谷線を残し、廃止となりました。

その後、渋谷～二子玉川間は新玉川線として地下を通る形で生まれ変わりました。

（中里通り商店街HPより抜粋）